

巻頭言

「ネット副会長」

松川太賀雄

アポロ計画はアメリカの威信を懸けた目標だったから、今世紀中といわずたつた八年で実現した。

このとき開発された航空エンジンや燃料、宇宙服から機能的衣料、機内食のレトルト食品、通信機器などの技術は、あらゆる分野に計り知れない貢献をもたらした。

とかく上越人は、宣伝や商売が下手と自嘲している。いつまでも嘆いていたのでは事態は変わらないのです。ふるさとへ一人でも多く誘い、上越の産品を一つでも多く買うなどして応援し、持たれ合うより「支え合う」関係になるうじやないですか。

さんに意見を求めている。

そして、平成十九年度は「上越市ふるさとアピール年間」と位置付け、大々的なキャンペーンや誘客イベントなどを展開して、市の知名度向上と交流人口の増加を計っている。

一九六九年に人類が初めて月面着陸に成功した。「今世紀中に人類は月面に着地する」と六一年にケネディ大統領（当時）が演説で「アポロ計画」を発表したときは、思わず「うそッ」と反応しつつも、この夢みたいなきっかけが実現したらすごいことだと心底思った。そして、月面に足を着けるという「絶対値」と今世紀中という「期限」付きで、妙に現実味を覚えたことも確かだ。

上越市では今、北陸新幹線や直江津港、上越火力発電所などの基幹的インフラ整備が進められているのと合わせて、合併後の新たな上越市を見据えて市政運営の最上位計画である「上越市第五次総合計画」（改訂版）を策定中である。

この計画が目指すものとして、従来の施設など量的拡大路線から、生活や文化などの質の向上に向かうことと、限られた財源と人的資源の活用に着目し、重きを置くなどの方向性を掲げて、広く市民の皆

計画は、「未来からの呼びかけ」に添えて、予め決めた期間に到達したい姿（目標）を描き、それを当事者が共有できるものでなければならぬ。企業の経営計画の立案では目的と目標（達成基準）を定め、その実現のための手段と費用を考え、タイムテーブルを作成するのが基本だ。そして手段は、現状と目標のギャップを埋める行為である。したがって、民間企業であれ行政でも、目標を掲げる習慣を持ちたいものである。

次いで、実績を糊塗しないことも大切だ。更に、公表して周知することと公共性や公益性を市場（価値）で検証することは欠かせない。

